

保健指導案

草津市立玉川こども園 看護師 高松 美香

1. 活動名

からだのはなし ～自分の体も心もだいじ 友だちもだいじ～ (5歳児 そら組 19名)

2. 活動の目標

(知識および技能の基礎)

- 人それぞれ容姿や価値観に違いがあり、自分も友だちも尊重されるべき存在である事を知る
- 自分の体はすべて大切だが、特にからだのどの部分がプライベートな部分かを知り、大切にすることを知る

(思考力・判断力・表現力の基礎)

- 自分の体を守り、様々な人との関わりを広げ、構築するためには、「はい」と「いいえ」など自分の意思を明確に伝える

(学びに向かう力・人間性等)

- 自分や友だちの体を守る具体的な行動や方法を知り、自分の体を大切にしようとする

3. 活動によせて

- 活動の設定理由

保健指導は、「自分の体を守る」という健康教育でもあり、人権教育でもあると考えられる。

ユネスコが作成した「国際セクシャリティ教育ガイダンス」の学習目標(5-8歳)の一つに、「自分のからだに、誰が、どこに、どのような方法で触れることができるのかを決める権利を、誰も持っている」とある。

自分の「からだの権利」を学ぶことは、自分の体を守ることにつながり、それは大切な友だちの体を傷つせず、守ることにつながるために活動を行う。

- 教材について

ユネスコの「国際セクシャリティ教育ガイダンス」や文部科学省の「生命(いのち)の安全教育」の指導目標に合う絵本「うみとりくのからだのはなし(作・遠見才希子 絵・佐々木一澄 童心社)」を導入に使用する。

また、クラスの担任の先生やクラスの子どもたちに協力してもらい、「手をつなぐ」というシチュエーションだけど、人や状況、接し方の違いで、気持ちの変化を言葉や表情だけでなく「言葉のプレート」を使い可視化することで、同じシチュエーションでも気持ちが違うことをこどもたちにわかりやすく伝え、考える機会を設ける。

- 指導について

「プライベートパーツは見るのも触るのも自分だけ」であるが、現状はどうなのか。こども園での生活の中ではどうなのか。

そこから、学んだ上で今できることがないか、それぞれの行動ごとに考えることで自分たちの生活とつなげて考えることができる。

4. ESDとの関連

- 活動を通して養いたいESDの視点

多様性

一人ひとり顔や体、価値観が異なるように誰一人として同じところはない。違っているけれど、尊重されるべき存在である。

相互性

自分の体と心を大切にすることは、自分自身の尊厳を守ることになる

公平性

ともだちとの正しい関わり方について考える

- 活動を通して育てたいESDの資質・能力の基礎

つながりを尊重する態度

相手の体と心も大切にすることを学び、思いやりの関係を築く

批判的に考える力

嫌なことやおかしいを思うことに「ノー」と言える力を育む

コミュニケーション力

- ・ 今までの関わり方を振り返り、相手の体に触れるときには同意があることを学び、健全な人間関係の構築ができるようになる
- ・ 危険な状況を避けたり、信頼できる大人に相談したりできるようになる

- ESDで育てたい価値観の基礎

人権・文化を尊重する

人との違いを認め、自分を大事にすることを身につける

- 達成に貢献するSDGs

3. すべての人に健康と福祉を



5. 活動に至るまでの流れ

- 入園から約3年間共に過ごし、様々な経験を通してながら成長をしてきた。一緒に過ごす時間の中で、気の合う友だちや仲の良い友だちができ、また子どもたち同士で声を掛け合いながら遊ぶ様子が見られている。友だちとのコミュニケーションの中で、相手の様子を伺わずに急に後ろから抱きつき、思いがすれ違ってしまうことがある。「今はやめて」「いやだったよ」と、自分の気持ちを伝えられる子もいるが伝えることが難しい子もいる。
- 国からの指針に従い、健康診断時は他の子どもの裸が見えないよう、パーテーションを活用するなどプライベートパーツを見せない配慮を行っている。また、水遊び時の水着への着替え時は、男女でクラスを分け、着替えをおこない、月に1回の身体測定時には、上下の肌着着用で実施している。しかし、裸になっている状態でうろうろ歩き回る子どもがおり、その都度服を着てから動くよう声をかけている。また、トイレ中の友だちの体を見たり、小便器を利用せず、個室に入っている男児の友だちに声をかけるといった様子が見られる。
- 月一回、体の成長や栄養など月ごとのテーマによる保健指導を通して体の仕組みについて興味を持ち、日常生活の仕方についても意識できるようになってきた。

6. 活動の評価規準

(ア)知識および技能の基礎	(イ)思考力・判断力・表現力の基礎	(ウ)学びに向かう力・人間性等
① 自分と友だちは違うけど、大切な存在である事を知っている。 ② プライベートパーツを知り、「見たり触っていいのは自分だけ」である事を知っている。	① 友だちと関わる時に、自分の気持ちを伝えること、友だちの気持ちを聞いてから関わろうとしている。 ② プライベートパーツを理由なく見られたり触られようとした時の対処方法をとっている。	① 自分や友だちの体を守るために、自分にできることを考えて、行動に移している。



7. 保健指導計画

○ 活動名

からだのはなし ～自分の体も心もだいじ 友だちもだいじ～

○ ねらい

- ・ 自分の心も含めた体を大切にできるにできるようになる
- ・ 自分の体が大切なことは、友だちにとっても同じであることに気付き、他人を思いやりの気持ちを持つことができる

時間	こどもの活動	看護師の配慮及び援助	評価規準
9:40		絵本「うみとりくのからだのはなし」を準備する ▲絵本を読む 	
みんな一緒ではない、私だけの自分			
9:45	○担任と看護師の様子を見て、体のパーツが一緒ではないことを見る。 ○看護師の好きな体のパーツと嫌いな体のパーツの話聞き、自分の体の好きなパーツはどこか、	▲担任と看護師で背比べや手の大きさや肌の色を比べ、一緒でないことを見せる。また、看護師が自分の好きな体のパーツと嫌いな体のパーツがどこかを話し、子どもたちにも自分の好きな体のパーツがあるか問うてみる。子どもたちの意見を聞き、好きなところも嫌いなところも全部自分でありそこも含めて大切な自分であることを話す。	(ア)①
自分の気持ちとともだちの気持ち			
9:48	○担任と手をつないだともだちの気持ちをプレートや話を聞くことで自分の気持ちがどうであったかや、ともだちの気持ちと一緒にであったかなどを確認する。 ○同じシュチュエーションでも、いやな気持ちになることがあることを学ぶ。また、他人の体に触れるときには同意が必要であることを学ぶ。	気持ちのプレートを準備する  ▲クラスの子と信頼関係が高い担任の先生に協力してもらおう。担任に前に出たいクラスの子に手を上げてもらい、一人選んでもらう。担任に「手を握るね」と声をかけ、子の反応を確認してから握ってもらう。そして、手をつないだ子の気持ちをきき、さらにプレートをあげてもらおう。 ▲先ほど担任と子どもたちでしてもらった「手を握る」というシュチュエーションを看護師と担任で急にし、担任に「いやだ」の気持ちのプレートを示してもらおう。子どもたちに、うれしいと感じた同じシュチュエーションでも、今回はなぜ嫌な気持ちになったのか考えてもらい、他人の体に触れるときには、まず相手の同意が必要であることを学ぶ。	(イ)①

8. 成果と課題

○ 成果

- ・ パーテーションを設置し、子どもたちに意見を聞くと「お隣でトイレをしているのが見えるよ」や「扉を開けると、前でトイレをしている子が見えちゃうよ」といった意見が聞かれた。トイレをしている様子が見える事に対する対策は完全ではないが、子どもたちがプライベートパーツは自分だけのものである事の知識を得られたこと。「見ないようにしよう」といった意識につながった。



○ 課題

- ・ 「気持ちのプレート」を使ったことで、気持ちの可視化ができ、指導したかったことを伝わりやすかったが、普段の会話では気持ちが可視化できるものはないので、言葉でしっかり伝えることを指導した方がよかった。
- ・ 指導のタイミングを、健康診断前や水遊びでプライベートパーツを見る機会がある夏前の方が、子どもたちに考える機会があり、良いのではないかと考えられる。